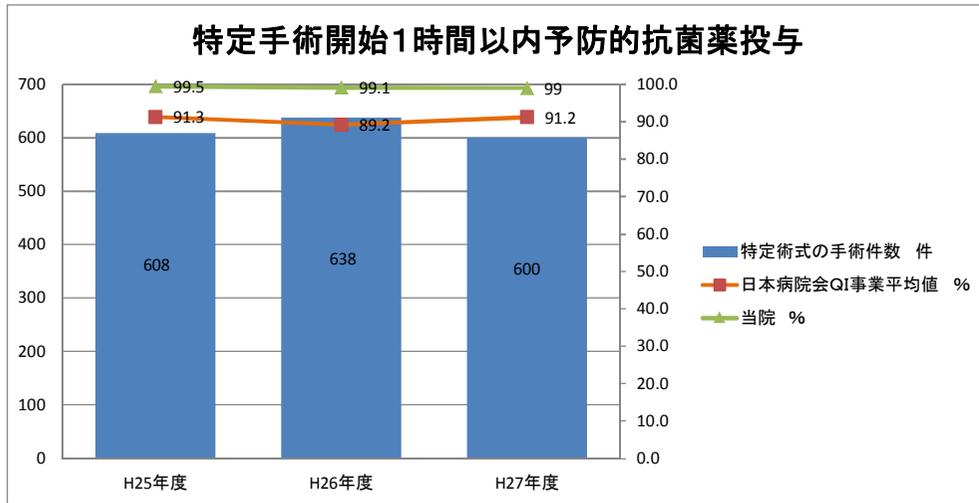


特定手術開始1H以内に予防的抗菌薬投与



計算方法

分子	手術開始前1時間以内に予防的抗菌薬が投与開始された手術件数
分母	特定術式の手術件数 (特定術式：冠動脈バイパス術、そのほかの心臓手術、股関節人工骨頭置換術、膝関節置換術、血管手術、大腸手術、子宮全摘手術)
除外	<ul style="list-style-type: none"> ・帝王切開手術施行患者 ・臨床試験・治験を実施している患者、術前に感染が明記されている患者 ・全身/脊椎/硬膜外麻酔で行われた手術・手技が主たる術式の前後3日 (主たる術式が冠動脈バイパス術またはそのほかの心臓手術の場合は4日) に行われたもの (日数計算は麻酔開始日/麻酔終了日を基点とする) ・手術開始日時の24時間前に抗菌薬投与されている患者 (大腸手術でフラジール及びカナマイシンを投与されている場合は除外の必要なし) ・手術室内または回復室内での死亡患者

指標の解説

・手術後の手術部位感染 (SSI) 予防対策のひとつとして、手術前後の抗菌薬投与があり、手術開始から終了2~3時間まで、血中および組織中の抗菌薬濃度を適切に保つことで手術部位感染 (SSI) を予防でき可能性が高くなります。このため、手術執刀開始1時間以内に適切な抗菌薬を静脈注射することで、手術部位感染 (SSI) を予防し、入院期間の延長や医療費の増大を抑えることが出来ると考えられます。

・感染により治癒が遅くなることで、患者さんの負担が増えないよう、当院ではあらゆる手段を講じて感染防止に努めています。

結果・考察

・平成27年度の対象手術は低下していますが、開始1時間前以内の予防的抗菌薬投与はほぼ90%と高い水準で推移しており、手術部位感染 (SSI) 発生予防対策の1つとして効果が得られています。